

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。  
これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくため項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高め

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	サポートピア葉山
所在地 (県・市町村名)	西彼杵郡長与町高田郷2179-1
記入者名 (管理者)	中島 浩子
記入日	平成19年12月20日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設当初から、地域の方とのかかわりの中で活力のある暮らしと、ほっとなごみの癒される空間を提供していくことを理念として設定している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>事務所やユニット内の目に付きやすい場所に理念を掲示している。職員採用時にも説明し、理念に沿ったケアが出来るよう会議やミーティングの際確認している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>来訪者の目に付きやすいよう玄関や応接室に理念・方針を掲示している。家族会や運営推進会議を通して活動を伝えることで理念・方針の啓発に繋がると考えている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ピア葉山の情報を回覧にてお知らせしており、挨拶や会話等、気軽に行っている。菜園等の敷地内に気軽に散歩に来られる近所の方もられる。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に加入しており、夏祭りなどの行事を回覧にてお知らせし、多数参加いただいている。同時に、老人会主体で行っているお花見に参加させていただき、清掃や趣味の活動、運動会等の地域活動にも積極的に参加している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議にて介護講習会開催の要望が出ており、現在調整中である。		この他にも、地域の高齢者や独居者に何かできることはないか検討していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義について職員に伝え、評価の情報も全職員で共有している。また、評価されたことは素直に受け止め、改善の必要な箇所はミーティングで話し合い改善できるよう取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の生活状況や認知症についての説明を行い、行事のお知らせも行っている。この会議を通して理解を深めていただき、相互の行事などに参加しあう関係が築かれつつある。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には町役場の担当者に参加していただいている。何か疑問・質問があれば確認している。		必要に応じさらに積極的に市町村との連携を図って行きたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	具体的に地域権利擁護事業や成年後見制度について研修等に参加したことはないが、以前ご家族と成年後見制度について検討したことがある。		地域権利擁護事業や成年後見制度について、学ぶ機会を設けて生きたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護向上委員会を設置し、虐待に繋がる対応がないか改めて確認するための資料配布などを行っている。また、ケース会議やミーティングを通して利用者への対応方法などを話し合い、虐待の防止に努めている。		虐待について学ぶ機会は今後ももって行きたい。職員のストレスから虐待に繋がる事もあるため、ストレスには注意を払い個人面談も継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症ケアでは、現場で働きながら学ぶことで経験し、理解していくことが大切であると考えている。法人内の他事業所での研修や認知症の勉強会などを実施したり、外部勉強会では一部の職員しか参加できないため、ユニット会議などを活用し、全体で反映できるよう努めている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のグループホーム事業者と連絡協議会を設立し、意見交換、情報交換、他事業所の見学などして、サービスの質の向上に努めている。また、連絡協議会主催でボーリング大会を開催するなど職員間の交流も図られている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ケアに関してのストレスはユニット会議や直接意見交換することにより、軽減に努めている。</p>	<p>来期より、法人内での親睦会を開催予定。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>現場で起きていること、課題、成果をしっかりと把握するよう、努めている。勤務状況を把握することで、健康状態の確認をしている。また、スキルアップができるよう支援を行い、管理者、職員が自分たちで考え実行していくことが工場につながり働きやすい環境作りにつながると考えている。</p>	
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談の際に、ご本人様、ご家族様から不安になるような事や、生活歴、大切にしている事など出来るだけお話していただき、入居前に理解を深める工夫を行っている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面談の際、心配なこと、どのようなことを求めているか、お話していただき、当ホームの様子、どのような対応ができるかをお話するよう努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時に、希望や生活状況をお聞きし、他のサービスで改善できるのであれば提案し、選択していただくよう対応している。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学や面談時に、出来るだけホームに来ていただき、雰囲気を感じていただいたり、他の入居者様とコミュニケーションをとっていただくことが大切と考えているので、来訪していただける申込者様にはお願いしている。入院中の方などは、何回か面談に行き、ホームの写真などをお見せし、安心していただけるよう努めている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>尊敬の気持ちを持ち、入居者様の立場を考え、ともに活動することにより、共感し支えあう関係を築いている。感謝する気持ちを忘れないように努めている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご本人様の様子、状況などを報告し、相談しながら、ご家族様の力をお借りして支援を進めている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>関係を継続できるように、普段から来訪していただいたり、ともに食事をしたり、宿泊して頂いたりしている。来訪が難しい方などには、手紙や電話などで関係を継続していただき、安心して生活していただけるように努めている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>日々の会話などで、昔の思い出を引き出したり、行きたいところへ出掛けたり、古くから使われている病院を継続するなどしていただいている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>共通の趣味などともに行っていたり、気の合う方同士の関係を把握し、食席などを考えるようにしている。また、自然な形で触れ合うことができるよう、職員で調整している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も、ホーム行事にご招待するなど出来る限り、出逢いを大切にしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1.一人ひとりの把握</b>				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援の中で、思いや意向を把握できるよう努力している。コミュニケーションをとることが難しい方には、表情を観察したり、ご家族に相談することで、最善の支援ができるように検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時にお聞きし、アセスメントを作成し、職員一人一人が確認し、把握するように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の様子を記録し、諸君が確認できるようになっている。変化があればその都度相談し、対応している。また、個々の出来ることを各担当者が考え、継続的にとにもするよう努めている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の希望を第一に、各職員が計画作成担当者と日々の様子などを意見交換しながら作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常、3ヶ月間で見直し評価を行い、変化が生じた場合でもその都度、ご本人様、ご家族様に相談したり、皆で検討しながら対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、共有するようにしている。気付いたことや失敗したことなども記入するようにし、次につなげる努力を行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイ、ショートは現在実施していない。		今後、状況が揃えば、ディサービスやショートステイの検討もしていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会に加入し、自治会での取り組みに参加したり、行動で行事などを行うなどしている。また、ホーム行事にも、自治会の方々をお招きし、詩吟や踊りなどを披露していただいたり、講師としてお招きしたりしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのかかりつけ医を継続していただいたり、定期的な医師による往診も確保し実施していただいている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に往診していただいている。状態変化時には、電話などで相談することが出来る。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている			
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者に対して、必要な情報提供をして、状態などの確認をしながら、早期退院に協力している。また、ご家族とも相互連絡を取り、情報交換をしている。ご本人様への面会も出来る限り行い、環境の変化を最小限にとどめることにも心掛けている。他にも洗濯物や必要物品の準備なども行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医、ご本人、ご家族と話し合いを行い、出来る限り対応させていただけるように、努めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	身体状況の変化に伴い、ご家族様にホームが対応可能なこと、対応できないことをお伝えし、話し合いを行っている。その際、医師や訪問看護ステーションとの対応が可能か相談している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居される際も退去される際も、情報交換、連絡を密にして、本人様にあった支援が実施できるよう取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	個別支援を基本にし、プライバシー、生活されてこられた時代背景を考え対応している。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	一人一人に合わせたペースで意思確認、決定していただくようにしている。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	日々変化していく入居者様の健康、精神状態に対応する支援を実施している。日課は、一応の基準として変化に合わせた支援を実施している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	ホームとしては、訪問美容師さんに来ていただけるシステムを作っているが、出来る限り、ご本人様の希望を取り入れて、馴染みの理美容室に行かれる方もいらっしゃる。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	体調や精神状態により参入していただけないこともあるが、出来ることを中心に参入していただけるように機会、場面作りを行っている。失敗などへもさり気なくカバーするなど次につながるように心掛けている。また、好みのメニューを取り入れたり、個別で外食にも出掛けている。	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	お酒などは、場面ごとで飲む機会を作っている。そのほか、欲しい物は、一緒に買いに出掛けたり、ご家族に依頼するなどして対応している。月に2～3度、移動商店さんに来てもらっている。	


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の排泄パターンを把握して、支援している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>希望に応じて入浴していただけるよう支援している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>個々の生活リズムを整えるよう、日中の活動を促したり、居室やソファで休んでいただいたり出来るようにしている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個々の趣味や出来る事を見出し、楽しく過ごして頂けるよう、支援している。たとえば、食事作り、花の水遣り、清掃など、力が発揮して頂けることを中心にして頂いている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>社会性の維持を目的に、外出時など、出来る限り、ご本人様にお支払いして頂くよう支援している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気のよい日は、散歩やウッドデッキなどで過ごしたり、買い物や食事などにも出掛けている。また、外出に関しては、ご家族の協力も見られている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>他県出身の方々もいるため、困難なこともあるが、出来るだけ希望をお聞きして、思い出の場所や長崎の観光名所などを巡るなど支援している。</p>		<p>長崎さるく博に参加を予定している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を居室に引けるように整えている。その他にも、申し出があればすぐに対応できるように心掛けている。手紙は職員が変わりに投函したりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでも来訪していただけるようにしている。笑顔とお茶やコーヒーで出迎え、必要に応じて、居室、フロアなどでゆっくり過ごしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議などにおいて、身体拘束を正しく勉強している。ナースコールやセンサーマット、出入り口にセンサーブザーを設置したりして、鍵をかけないように工夫したりしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員一人一人が見守りの強い意識を持ち、取り組んでいる。感慨地に備えて、センサーブザーなども設置している。外出したような方がいた場合には、職員がついていき、少し歩くなどして、自由な暮らしを支えている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々のリスクを把握し、職員一人一人が、入居者様の行動を常に把握できるような体制を整えている。夜間はユニットごとに1名ずつ配置し夜勤体制をとっており、個々に応じた巡視を行っている。必要な方には、センサーマットなども使用している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様に保管できるものは保管していただき、リスクがあるものは、預かるようにしている。使用する際は、見守りながら使用していただいている。刃物類等危険物は、入居時に保管する旨を伝えている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の予測できるリスクについては、ケアプランにて確認、見守り、介助を行っている。万が一、事故が発生した場合も、報告書を作成し、原因、予防策を検討し、周知徹底し、ご家族様にも報告している。また、骨折などにより、入院が必要となった場合には、町へも報告している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを整備している。ユニット会議やホーム内勉強会において訓練を実施している。		
71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回、消防総合訓練を行っている。また、地域の方々に訓練を見学していただいたり参加していただいたりして、実際に発生した場合に、協力していただけるようお願いをしている。また、消防設備なども地域の方々に報告している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状況に応じて、説明、相談しながら、少しでも自由、自立に向けた取り組みをするよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	状況変化が起きた場合に、バイタルチェックなど必要な処置をして記録、報告をして、指示などを仰いでいる。		
74	服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をすぐに確認できるように配置している。新たに処方された場合は、用量用法などを申し送りしている。また、副作用と思われる、状態変化時には、医師に報告し、服用を中止していただいたりしている。		
75	便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を第一に考えながら、食べ物や飲み物、運動、入浴などに努めている。		
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝昼夕語の口腔ケアを個々にあわせて支援している。また、ユニット会議や委員会などにおいて、口腔ケアが感染予防などにつながることを伝えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師、栄養士により献立をたて、個々の摂取量や、残食量をチェックしている。気分に応じて、時間をずらすなどの配慮もしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	可能性がある感染症のマニュアルを完備し、予防に向け取り組みを実施している。保健衛生委員会や休職委員会を中心に情報収集も積極的に行い、感染症予防、対応に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生に関して、取り決めを行っている。食材も専門の業者を使用し、仕入れの際に確認するようにしている。季節により、使用する食材を中止したりすることもある。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に、ベンチ、花や手作りの看板を設置している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時には、心地よい音楽を流したり、ロールカーテンにより強い日差しを遮るなどしている。入居者様にとって、生活しやすい環境を整える工夫をしている。また、ご本人様手作りに品や季節感を感じられる作品なども飾り付けしている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやマッサージチェア、私物イスなどを設置、ユニットによっては和室を用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、写真、思い出の品を多用し、入居者様本人の好みの居室となるように配慮している。		
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロア、居室に温度計、湿度計を設置し、常温とあまり差が出ないように配慮し、その日の気温に応じて調整している。換気も朝・夕を基本に適度実施している。居室も換気、エアコンなどを利用し、入居者様に合わせ調整している。他にも床暖房や浴室暖房などを設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要だと思われるところには、手すりを設置、浴室も滑り止めマット、シャワーチェアなど必要に応じて設置している。あえて手すりをつけていないトイレなども確保している。		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には表札や写真、思い出のある品などを設置している。		
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで洗濯物を干したり、中庭で季節の花を觀賞したり、ウッドデッキにてお茶を楽しんでいただいている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない



項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昭和初期に見られたご近所づきあいを、地域にある1件の家として、再度行なえるように、出退社時より挨拶を基本として関係作りを行なっている。  
また、年に1回開催される夏祭りには、自治会のみならず総勢150名ほどの参加がみられている。  
ホーム内では、一部のユニットで、試験的に頭の体操を開設当初より実施し、入居者様の要介護度、認知症度の維持・向上が見られている。